

事務事業評価シート 平成 28 年度事後評価・決算

平成 30 年 2 月 22 日時点

事務事業名			コード	42100	大原幽学記念館管理費(活動費含む)	予算科目	会計	款	項	目	事業種別
基本施策			13		芸術文化の振興・伝統文化の保存	根拠法令	文化財保護法、博物館法、大原幽学記念館の設置及び管理に関する条例	10	4	11	☒ 主な事業
施策の展開			27		文化財の保護	戦略事業	131				☒ 国土強靱化地域計画
施策の展開						戦略事業					☒ 新市建設計画
											☐ 定住自立圏構想
											☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 7 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで		大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。【活動経費】臨時職員2名(館長・用務員)の賃金、講師や研究員の謝礼、印刷物の作成費などがある。【維持管理業務】記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ面積1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなっている。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来館者の対応のため、設備の保守・整備を行う。保守点検(浄化槽・受電設備・消防設備・エレベーター)、館内清掃、くんじょう作業を含む館内環境調査、ネズミ防除を業者に委託している。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員をおいた保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。		・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究を行っている。・記念館が立地する遺跡跡公園内にあったキャンプ場が平成21年度で廃止。農水産課が同公園で実施する交流事業は平成19年度から開始したが、事業数・参加者数が減っている。	
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等			
・施設利用者の方から「障害者や高齢者の使用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか。」との意見がある。			

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(28年度の決算)	単位: 千円
1. 賃金	2,685
2. 報償費	852
3. 需用費	4,093
4. 委託料	2,213
5. その他	1,356
② 特定財源の内訳(28年度の決算)	単位: 千円
1. 国庫支出金	0
2. 都道府県支出金	0
3. 地方債	0
4. その他	566

事業費	費目内訳	単位	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
事業費	1. 賃金	千円	2,690	2,685	2,685	2,685	2,768
	2. 報償費	千円	906	853	858	852	941
	3. 需用費	千円	5,141	4,940	4,214	4,093	3,997
	4. 委託料	千円	2,072	2,175	2,214	2,213	2,337
	5. その他	千円	3,075	1,341	1,435	1,356	1,689
財源	事業費計(A)	千円	13,884	11,994	11,406	11,199	11,732
	1. 国庫支出金	千円					
	2. 都道府県支出金	千円					
	3. 地方債	千円					
	4. その他	千円	1,214		603	566	602
	5. 一般財源	千円	12,670	11,994	10,803	10,633	11,130

前年度増減理由 前年度は記念事業を実施したため

従事職員数 常時 2人 最大 人 × 日 = 延べ 0人

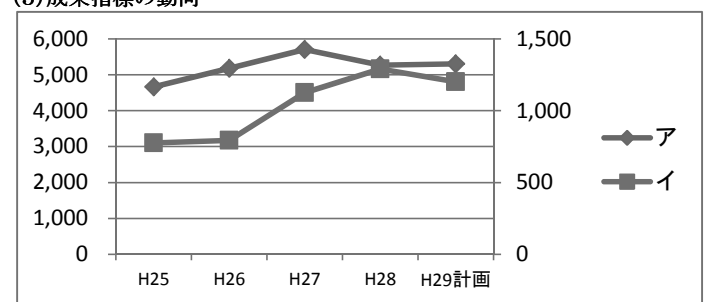
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
手段	28年度実績(28年度に行った主な活動)	ア 記念館開館日数	日	302	302	305	301	305
	・企画展「上田・小諸と大原幽学」開催 ・文化財調査事業 ・古文書講座・茶道教室・体験講座	イ 講座・企画展開催回数(延べ)	回	87	79	85	91	85
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
目的	対象 市民、観光客 意図 記念館へ来館することにより、郷土の偉人である天原幽学の活動や業績を知ることができる。	ア 大原幽学記念館の年間入館者数	人	4,663	5,175	5,700	5,266	5,300
	対象 市民 意図 地域の歴史や文化財に対する理解が深まる。	イ 講座受講者延べ人数(学習機会をもった利用者がどれくらいいるか)	人	775	793	1,125	1,291	1,200

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	成果	成果向上余地	評価結果	成果	コスト比率
		かなりある			下位 1/3
大きい	②		①		中位 1/3
	③		②		上位 1/3
	④⑤		③		
普通	⑥		④⑤		
	⑦⑧		⑥		
	⑨		⑦⑧		
小さい			⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	② 成果の状況	③ 今年度取組事項
評価内容	☐ 完了 ☒ 順調 ☐ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難	(コメント) (停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	(コメント) (低下の場合、その理由)
	成果指標ア 成果指標イ	数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	団体利用が減ったため、入館人数が減少した
評価内容	時期 平成29年9月	内容 企画展のポスター・チラシの配布先を見直す	今後の方向性 平成29年度 PRの方法を模索する
	比較 ア イ	24年度 25年度 26年度 27年度 28年度 29計画	見直し ☐ その他()